

9 番 児 玉

皆さん、おはようございます。

議席番号9番、児玉洋一でございます。一般質問通告書にのっとり、一般質問をさせていただきます。

私からは、新たな広域連携で魅力あふれるまちづくりをについて質問をさせていただきます。

令和2年11月1日現在、当町の人口は9,974人となり、山北町第5次総合計画後期基本計画に掲げる2023年の将来人口1万1,000人を大きく割り込み、この先も人口減少に歯止めをかけるには難しい状況にあります。

このままいけば、10年先20年先の町の将来はどうなるのでしょうか。

総合計画のスローガンでもある「みんなでつくる 魅力あふれる元気なまち やまきた」とはいかなるものなのでしょうか。不安は尽きません。

子育て支援や教育環境など、きめの細かい町民サービスは目につきます。しかし、将来の町の姿を描くには、関係自治体を巻き込んだもっと壮大なブランドデザインが必要ではないでしょうか。

町民一人一人が活力あふれ、魅力あふれる将来の山北町をつくっていくために、県西地域の広域連携はもちろん、県域を超えた新たな広域連携の必要性があると感じ、以下の質問をします。

1、スマートIC周辺土地利用構想の進捗と、それを基にした道路整備、雇用促進、観光振興等を見据えた新たな広域連携が必要と思うが、どう考えるか。

2、「御殿場市と山北町における関係人口の創出・拡大に向けた相互連携協定」締結後の取組状況とその成果をどう捉えているか。

3、富士・箱根・伊豆交流圏（SKY広域圏）を形成する幹線道路の整備促進に対し、静岡・神奈川・山梨の3県及び国を交えた検討組織立ち上げなど、積極的な働きかけが必要と思うがどう考えるか。

以上です。

議

長

答弁願います。

町長。

町

長

それでは、児玉洋一議員から「新たな広域連携で魅力あふれるまちづくりを」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「スマートインターチェンジ周辺土地利用構想の進捗とそれを基にした道路整備、雇用促進、観光振興等を見据えた新たな広域連携が必要と思うがどう考えるか」についてであります。町では、（仮称）山北スマートIC周辺地域において、産業・観光の新たなゲート空間としての土地利用展開を図り、観光・交流・人口の増加と新たな産業振興につなげるため、本年3月に「（仮称）山北スマートIC周辺土地利用構想」を策定いたしました。

策定後の取組状況につきましては、神奈川県知事らが出席する足柄上地域首長懇談会や、県議会議員との政党ヒアリングにおきまして、本構想の実現に向けた県の支援を要望し、また、県西土木事務所や中日本高速道路株式会社などの関係機関に対しても、本構想を説明し協力をお願いしております。

また、地元の御意見を伺うため、清水あり方研究会に本構想について説明するとともに、庁内関係課による調整会議を設置し、現在、本構想の事業化に向けた検討を進めているところであります。

（仮称）山北スマートICが完成することにより、本町へのアクセス性が向上し、観光入込み客の増加や企業活動の活性化などが期待されております。

さらには、新たな広域的な交通拠点が形成されることにより、県西地域や県域を越えた広域的な地域活性化へつながることも期待されております。

こうした整備効果を引き出すためには、スマートICと接続する県道76号や国道246号などの道路環境や、スマートICを起点とした町内外にわたる広域観光ルートを強化するなどの取組が必要となってきます。

このため、（仮称）山北スマートICが県西地域の新たな玄関口としての役割を果たすことができるよう、広域的な地域活性化につながる方策について、国、県や関係自治体と一層の連携を図ってまいります。

次に、2点目の御質問の「『御殿場市と山北町における関係人口の創出・拡大に向けた相互連携協定』締結後の取組状況とその成果をどう捉えているか」についてであります。本協定は、御殿場線でつながっているものの、生活圏域の違いから交流する機会の少なかつた御殿場市と本町とが、関係人口を創出、拡大することで、2市町の相互の課題解決、御殿場線沿線地域の活性化を図るため、本年3月17日に締結いたしました。

この協定に基づく最初の取組として、まずは観光振興の観点から、イベント交流を実施することで2市町の観光資源や特産品などをお互いに情報発信し、関係人口の創出、拡大などにつなげていく考えでありました。

しかしながら、今年度は新型コロナウイルスの影響により、2市町において、ほぼ全てのイベントを中止せざるを得ない状況となっております。

こうした状況下ではございますが、御殿場市からの御提案により、やまきブランドに認定しております「獅子ゆず」を市の職員の方にあっせん販売し、本町の特産品を御殿場市へPRするとともに、新たな販路を創出することができました。

現在、コロナ禍という状況の中、イベント時における交流事業の実施が困難な状況ではありますが、今後の動向などに注視しながら、交流事業の取組について御殿場市と一層の連携を図ってまいります。

次に、3点目の御質問の「富士・箱根・伊豆交流圏（SKY広域圏）を形成する幹線道路の整備促進に対し、静岡・神奈川・山梨の3県及び国を交えた検討組織立ち上げなど、積極的な働きかけが必要と思うがどう考えるか」についてであります。富士箱根伊豆交流圏における広域的な行政課題については、圏内38市町村で構成される「富士・箱根・伊豆交流圏市町村ネットワーク会議」と、山梨、静岡、神奈川県3県で構成される「山梨、静岡、神奈川県三県広域問題協議会」とで連携を図り対応しております。

特に、この圏域における幹線道路整備については、「三県広域問題協議会道路検討部会」で、県が中心となり、路線ごとに関係市町村と意見交換や検討を行い、整備に向けての課題や今後の方針などを整理し、定期的に国への要望活動を行っております。

本町におきましても、県境をまたぐ道路整備については、長年にわたる課題となっており、私もその必要性については十分認識しているため、本年度から県西土木事務所など、県関係課職員との意見交換会を始めたところであります。

当面は、この意見交換会の中で調査研究を進め、本町における広域的な道路整備の在り方や効果、必要性などを明確に整理し、検討の進捗や熟度の高まりに応じて、国・県や関係自治体に整備促進に向けた働きかけをしてまい

りたいと考えております。

議 長 議席番号9番、児玉洋一議員。

9 番 児 玉 児玉でございます。

御答弁いただきました。

再質問のほうをさせていただきたいと思いますが、まず、昨日6人の議員のほうから一般質問、町側から御答弁いただきましたけども、どうでしょうね、全体的に見て、魅力あふれる元気な前向きな御答弁がいただけたかなと思うと、ちょっと残念な気持ちもします。

ぜひ、これからの事案は、魅力あふれる元気な前向きな御答弁を期待しつつ再質問に入らせていただきたいと思いますなと思いますけど。

まず最初に、スマートインターチェンジの関係ですけども、昨日、堀口議員がバトンを渡してくれました。山北駅前が玄関口ではこれからではなくて、スマートインターチェンジが玄関口であると考えているという御発言がありました。

まず、ここ確認させてください。間違いないですか。

議 長 町長。

町 長 はい。私もいろんなところを行ってますけども、やはり道路のインターチェンジ、それから新幹線の駅、それから国鉄とか何かの今はJRですけど、JR、あるいは私鉄の駅、これらが皆さん、町なり市の玄関口になるということで、特に東北のほうを見てますと新幹線が開通して、あっという間に新幹線の駅が玄関口になるというような、たまたま私が行ったのは八戸でしたけど、全然、八戸から離れているんですけど、だんだんだんだんあの辺が玄関口になってくるような雰囲気を感じております。

山北町におきましては、当然、JR山北駅は、当然、今までどおり、玄関口ではありますけれども、しかし、おそらく新東名が開通したときには、山北という地名も、やはりそういったような、スマートインターから出たときに山北、あるいは丹沢湖というようなイメージが起きるのではないかと、また、そういうふう到我々としては努力していかなければいけないのではないかとこのように思っております。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉

ありがたい御答弁をいただきました。

まさに、私もそういった思いでございます。

これまで、やっぱり山北、小さな山北駅前におきましては小さな拠点づくり、今、東山北、昨日もありましたけども、東山北1000計画、山北、東山北と来ましたから、ぜひ谷峨駅周辺、スマートインターチェンジ周辺をこれから玄関口として、いろんな部分で開発を進めていただきたいと、そういった思いでもございます。

ただ、やはりこれ、私も今年の3月も同じような質問をさせていただきましたし、おそらく、ほかの議員からでも、それ以前から、やはりあの辺、清水地域周辺がどうなってくるのかといったところについては、もうずっと青写真が描けてないから、何とかどんな絵になるのかといったところだけでも示してくれといった話をずっと進めていました。

コロナ禍でなかなか集合会議ができないという状況ではありますけど、やはり、あと3年といったところでもございますので、この辺り、かなりスピード感を持ってどこかのタイミングで具体的な構想を示すべき時期なんじゃないかなと思っているんですけど、現在の進捗、それからどの辺りの時期で発表というか説明を考えているのか、改めて確認をさせてください。

議
町

長 町長。

長 私のほうでも、様々なやり方があると思いますけども、例えば、鉄道の町として、今、D52のほうをやらせていただいております。あれも同じですけども、一つやって、それでぼんといくということはちょっと無理だろうと、やはり長く続けていかなければ、そして、一つ一つ整備していかなければ難しいというふうに思ってますので、やはりその方向性を示す、一番基本になるのはスマートインターができますと、ふれあいビレッジであるとか、あるいは道の駅というのが、まず玄関口になるだろうと、まず、そのところはどうしても外せないだろうと。それから、いろいろな看板ではございませんけども、そういったものの中に、やはり町が目指すべき方向性をはっきりと打ち出したほうがよろしいのではないかと。当然、開通したときに全ての施設ができるということはありませんけども、それから、例えば10年、20年かかっても、そういった方向性の中で周りの整備をしていく、そういうような

ことをやはり私のほうとしてはやっていけたらいいんじゃないかというふう
に考えております。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 今の町長の御答弁では、まあ全体のぼやとした構想だと思うんですね。
ただ、もうぼちぼち具体的な、ここに何ができる、何を造る、それをいつま
でにやるというのが、少なくとも地元の住民に対しては説明がそろそろ必要
なのではないかなと、まあ議会でも御存じのとおり、おしゃべりC a f eな
んかを通じて、つい先日、清水地域でもおしゃべりC a f eをさせていただ
きましたけど、ほとんどそれですよ、やはり。清水、その辺のインターチェ
ンジの周辺がどうなるのって、それが、まだ何も説明ないんだけどという話
なんですね。要は、ふれあいビレッジと道の駅の山北も、そこは、まあ当然
なんでしょう。ただ、下りてから、今、町長の御答弁にあったように、車を
どっちに流して、例えば先日の御答弁でも大野山のハイキングコースとか、
いろいろお話ありました。橋が見える何か観覧台とか、何かそういうものを
造るであるとか、ふれあいビレッジから川を橋とか石畳か何かで渡して道の
駅につなげるようにするとか、いろいろお話いただきましたけど、結局、
その部分の説明がまだ何もないよという話なんですね。なので、要は、こ
れがいつ提示されるのかといったところが一番気にかかっているところなん
です。

その辺り、もしお示しいただければお願いします。

議 長 町長。

町 長 はい、おっしゃるように、いろいろな考え、町でも、あるいは皆さんから
もいただいております。

その中で、やはり使う場所が県の土木の関係、あるいは様々な県道の部分
に入っております。ですから、今一番喫緊にやらせていただいているのが、
ふれあいビレッジも、災害が2度、ああいうふうにあったということ、水路
を変えたいということで、今交渉をさせていただいております。

また当然、その下の今の中日本さんあたりが新東名で使っているような
ところも、河川区域になりますので、当然、それについては県のほうの承諾
が得られないと、なかなか難しいと、まあ、そういったような中で、当然そ

ういったようなことを今一番最優先で、それが大体めどがつけば、皆さんにどのような、そこを使って構想ができるかということが示せると思いますけれども、その利用ができないのに勝手に絵を描いて、当然、県のほうから何考えてるんだというようなことになりますとやはりまずいんではないかというふうに思っておりますので、そういった様々な関係では、やはり国のいろいろな保安林であるとか、あるいは様々な規制がございますので、それらを慎重にクリアしながら、そして皆さんの、地元の人たちと一緒に、そういったランドデザインを描いていければいいかなというふうに思っております。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 やはり、県なりいろんなこの関係部署の承諾得ながら進めていかなければいけないというのは、我々も承知をしているところではございます。

ただ、やはり、この話もずっと前から言っているんで、できるところのことなら、もう早めに、早め早めにまさに広域連携、県と一緒に、あとは地元のあり方研究会等もございますから、積極的にスピード感を持って進めていただきたいなと思います。

また、あえて、ちょっとここで質問させていただきますけど、やはり、この土地利用構想については、周辺やっぱり直径5キロの範囲というお話もありました。やはり、今みたいなお話を伺うと、やっぱりあそこを玄関口として考えるのであれば、やはりここは5キロとは言わずに、先を見た10キロ、20キロ、そういったところの範囲も必要になってくるのではないかなと思いますけども、その辺り、改めてお考えはどうでしょう。

議 長 町長。

町 長 やはり、当初の計画ですと、1日数千台というような、利用するだろうというような予定でございますけど、スマートインターについてはね。それらがどういう人たちをターゲットに、どういうところへ持っていかなければいけないかというのは、非常に難しい判断だというふうに思います。

今までの丹沢湖マラソンとか、様々な花火とかを見ていて、お分かりのように、どうしても道路事情が、まだまだインフラが整っておりません。また、駐車場等も整備が完璧ではない。そういったような中で、むやみに、ただぼ

んと観光客を入れるということは、やはり難しいのではないかと。やはりターゲットをしっかりと絞って、こういう人たちはこういうところに来てほしい、このぐらい来てほしいというような、やはりそういった目標をしっかりと持ちながら、それに対して、どういう設備を、インフラをやっていくのか、そういったようなことが、やはり一番大事ではないかというふうに思っておりますので、ただ、それが一つではなくて、複数で、当然考えていかなければいけませんから、家族連れであるとか、あるいは、山を好きな方とか、あるいは別のいろんな自転車をやる方とか、あるいは今山北町がSUPをやっておりますけれど、そういったようなことも含めて、どういうターゲットをどういう時期にどういうふうに来ていただくかということは、非常に大事な考え方だというふうに私は考えております。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 それと、最初の答弁書の中にもありました、庁内関係課による調整会議を設置し、現在、本構想の事業化に向けた検討を進めているといったところですが、あの辺り、もう少し詳しく、どういったセクションがどういった事業化に向けた検討を進めているのか、いわゆるオフィシャルな会議なのか、組織なのかどうかといったところなんです。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 スマートインターチェンジの土地利用構想の庁内の会議体の関係でございますけれども、これにつきましては、関係課といたしまして、財務課、都市整備課、商工観光課、新東名対策室、事務局が私ども企画政策課という形になってございまして、全て課長の出席を求めている会議体でございます。

それで、1回目の会議を10月に開催いたしまして、その中でスマートインターチェンジ土地利用構想の関係の整備を進めるに当たっての課題の整理ですとか、進め方について確認をいたしました。

その中で、3月定例会の際の全員協議会のときにスマートインターチェンジ土地利用構想、御説明申し上げたんですけれども、構想は、後ろのほうに展開イメージということで、①から⑤まで示させていただいております。その中で、展開イメージの①スマートインターチェンジ周辺のゲート景観の演出という部分、それと展開イメージの⑤道の駅山北周辺での情報スポットの

整備ということで、この2つについて優先的に進めていったほうがいいんじゃないかというような方向性を出させていただきました。

これにつきましては、土木さん、県西木事務所ですとか、NEXCO中日本さんのほうの関係もございますので、土木さんのほうとNEXCOのほうには、一応、町のほうでは、この2つをちょっと先に進めたいというような話をさせていただきまして、展開イメージ①については、スマートインターの造成のり面の景観づくり等もありますので、これについては、NEXCOさんのほうにちょっと町のほうから、ぜひとも協力をしていただきたいというようなお願いをしてみました。

展開イメージ⑤につきましては、現在あるオアシス公園の部分の再整備等もありますので、こちらについては、河川の関係の許認可の関係が出てまいりますので、土木さんのほうにお話をいたしまして、早い段階から調整を進めてくれよみたいなお話をいただきました。

これについて、展開イメージの①⑤については、今後、庁内の調整会議、この会議を年度内にもう一回開催させていただいて、具体的にどのような形で整理を進めるのかというのを町のほうも方向性を出していきたいというふうに考えておまして、来年度、具体的な構想図というんですか、そういうものをつくっていかうかなというふうに考えております。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 ぜひ、この庁内関係課による調整会議を有効に活用していただいて、関係機関を巻き込んでスピード感を持って、構想実現に向けた取組を進めていただきたいと思っております。

道路整備に関しての質問もあったんですが、ちょっとこれは最後のほうにします。

雇用の、この今のスマートインターチェンジを拠点とするのかどうなのかといったところもあるのですが、雇用促進の部分について、ちょっと確認させていただきたいんですけども。

これ先日、昨日も話ありました総務環境常任委員会で小山町行ってまいりまして、相変わらず、この小山町の取組には衝撃を受けて帰ってくるわけですけれども。

小山のスマートインターチェンジ、あそこもできますね。スマートインターチェンジ周辺の土地利用構想、小山のですね。あれはもうすごいですね、動線が明確なんです。民間企業とか、第三者を巻き込んで内陸フロンティアの工業団地のほうに流すのか、富士スピードウェイに流すのかというのが、もうかなりグランドデザインがしっかりと描けていると。それには、相当な第三者の力というものがあつたんだと思うんですけども。

工業団地に関しては、昨日もありましたけど、企業求人が追いつかないという話ですね。これは昨日、町長のお考えで、湯川町長とはお考えがちよつと違うんだという話もありましたけれども、いまだに2,000人雇用が不足しているそうです。私も個人的に小山の担当課長とちょっと付き合いがございまして、いろんな話、あれから、あの後も聞かせていただけたんですけども、やはり、小山はかなりラブコールを山北町のほうに送っているという話なんです。

なので、昨日の御答弁の中で、たしか定住対策課長、御答弁いただいたかと思うんですけど、小山町とか、御殿場市の職員連携みたいなのも考えていながら雇用促進について検討していきたいなんて御答弁いただきました。

この辺り、お考え改めて伺いたいんですが。

議 長
定 住 対 策 課 長

定住対策課長。

先日、そのようなお答えをしております。

その趣旨が、今までは定住の関係で、今まで人口対策として、いろんな情報を発信するのが、横浜、川崎、東京、あちらの方面がメインになっていたというのが現状でございます。

ここで、御殿場市と協定を結んだときに、やはり御殿場のほうでは働くところはあるんだけど、働く人がいないというような関係の中で協定を結ばせていただいているような現状がありますので、逆に、今その募集を東のほうに向けていたのを逆に西のほうにも向ける必要があるのではないかというような考えの中で、今まで、そういう職員同士の交流もありませんでしたので、これを一つのきっかけとしまして、小山町とは協定という形はできてないんですけども、近隣ということもありますので、そういうところを踏まえて、まずは職員同士である程度の交流というか、そこら辺の話をしていきな

がら、逆に言うと、そこから募集のほうにかけていきたいなという趣旨で昨日答弁させていただいております。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 まさに望んでいた答弁がいただけまして、御殿場市とは協定結んだけど、小山とは協定は結べてないと。やっぱり小山と御殿場と雇用促進に関して、山北町が、今、西に向いたって非常にいいことだと思うんです。

昨日、町長もビジネスモデルを川崎、横浜からこっちに持ってくるのは難しいというお話もありました。まさに、やはり西に向けて、真隣の小山町であるとか、御殿場市はせっかく協定も結んでいるんですから、御殿場の話、後でしょうかと思ったんですが、今出ましたからちょっとしちやいますけど、この先、やはり小山町とも御殿場市とも連携、協定結んでますんで、この辺り、やっぱり雇用促進に関する具体的な、大きな協定を締結するなんていう話じゃなくて、今おっしゃられた雇用促進に関して特化した雇用促進協議体みたいな、そんなような組織をつくって、山北、小山、御殿場、言ってしまうと松田町ぐらいの、この御殿場線沿線を巻き込んだ周辺地域で具体的な協議体みたいなをつくって、雇用促進に関する何か前向きな検討を考えたらどうかなんて、そこの辺り、町長お考えどうですか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、今、雇用促進について議論してるわけですけども、とにかく、このスマートインターチェンジで欲張りして、道路整備と雇用促進と観光振興やりたいというような大きな枠組みを持っております。

その中での雇用促進でございますけども、一つには、今、児玉議員がおっしゃったような、今現在、山北町に住んでいらっしゃる方の雇用を、小山、御殿場のほうに広げていくと、これは、もう当然やらなきゃいけないと。

もう一つは、当然、人口減に悩んでおりますから、山北に住んでいただいて、そして向こうへ通っていただけないかという、こういう欲張りな考えを当然持ってるわけです。そうしますと、やはりそれに付随して、住宅は建てたけど、学校はどうするのか、スーパーはどこにあるのか、コンビニはどこにあるのか、そういったような当たり前の、今、生活していく皆さんにとっては、ごくごく当たり前のことが、どの程度満足していただけるか、そうい

ったようなことが当然移住政策には欠かせないというふうに思っております。

そういう中で、今現在、東山北におきましては、徐々に完備しつつあるというふうには認識しておりますけども、玄関口になる清水地区については、これからそういったことを整備していかなければいけない。しかし、皆さん民間企業ですから、スーパーマーケットに来てほしいと言っても、おいそれとは行かない。そうしますと道の駅とか何かにそういった機能を若干持っていただくような、そんなようなことも一時的には考えていかなければいけないだろうと、そういったような様々なことを考えながら、当然、今、児玉議員がおっしゃったような雇用促進に対する協議会というのも当然考えていかなければいけないというふうに思っております。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 今、移住定住の話も出ましたけど、スマートインターチェンジができるのは、当然、清水地域で、その先にあるのは三保地域ですから。清水、三保の方々、生活拠点としての、いろんな話聞くと、やはり小山町とか御殿場のほうに買物に行くという方多いんですね。私もこういう立場であるので、なるべく山北のほう使いますけど、もしかしたら、ただコンビニに行くだけだったら県境のコンビニに行ったほうが近いのかも知れません。そういった部分で、生活拠点がやはり西に向いてるというのは、清水、三保の住人の多くは、おそらくそういった方たちが多いのかなというふうに思っています。

働く場所も、おそらくはそこに工業団地ができるのであれば、15分から20分で行けますから、そういったところを考えると、移住定住の話が出ましたけど、これは夢ある話で、御見解を伺いたいんですが。

どうでしょう、清水、三保地域に住宅エリアみたいな、そういったもののお考えみたいなのはありますか。

議 長 町長。

町 長 昨日もちよっと申し上げましたけども、私は三保地域においては、少なくとも玄倉と箒沢はそのままテーマパークだろうというふうに思っております。そういったような発信がうまくできれば、そういったところに住んでみたいという人は増えるんじゃないかというふうに思っておりますけど、一般的な三保ダムの周辺であるとか、中川温泉の近くということになると、やはり、

その辺は、皆さんと協議しながら、その不安部分、特に、今、児玉議員がおっしゃったような、コンビニは向こうの西のほうへ行ってる、あるいは買物は向こうのほう西のほうへ行っているといったようなことをどういうふうクリアできるかというようなことが一つ考えられるのではないかなというふうに思っております。

様々な方法があるとは思いますが、やはり地域の方が、そういうふうな積極的な考え方の中でやっていこうというようなことがないと、町としても勝手に絵を描いてということはできませんけども、共同で、例えばふだん使うようなものは、例えば冷凍で全部皆さんで共同購入するとか、そういったようなことも、例えばコストコみたいなところを使えば、そういったこともできるのではないかなというふうに思いますし、また一般的なものについては、やはり自分で行って、選ぶ楽しさというんですか、そういったようなこともあるでしょうから、やはりそれについては、何回かは御殿場とか小山のほうに行くのも、当然必要だろうというふうに思っております。

そういったようなことが住んでいただける方に提供できることによって、三保のよさというんですか、特に、今、鹿島山北高校が行っておりますから、高校、あるいは受験に対しての中学というようなことも特徴としてやれるのではないかなというふうに思っていますので、そういったような子育てについても、あるいは特にそういった学力についても、独特のものが、もし皆さんの御希望があれば進めていけるのではないというふうに思っております。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 魅力あふれる元気なまちづくりに向けた御答弁をいただけたと思っております。公共交通とか道路とか雇用とか観光とか、何でもいいとは言いませんけど、山北町単独では、もうこれから難しいので、広域連携といったところで、ぜひ進めていっていただきたいというふうに思っています。

一番こわいのは、スマートインターチェンジが結局できただけでしたという話が一番こわいで。何も変わらない、人も来ない、周辺土地も変わらない、お金が落ちない、こんな結果にならないように、それだけは、ぜひ避けていただきたいと、あと3年しかないので、スマートインターチェンジをきっかけとして、いろんな多方面と広域に連携を進めていただいて、魅力ある

エリアにと努めていっていただきたいと思います。

次に移りますが、御殿場と相互連携の関係ですけど、先ほど少し触れさせていただきました。なかなかこの中で難しい面もあったかと思いますが、改めてこの御殿場市との相互連携協定を結んだ先にゴールはどこに設定していいのかといったところなんですけど、改めてちょっとお考えを伺います。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 御殿場市との協定の関係でございますけれども、今ゴールはどこに定めるのかというふうな御質問だったかと思いますが、当初、この協定を結ぶに当たりまして、御殿場市長と湯川町長のほうと締結式を行いました。

その際に、まず首長さんのほうから話があったのが、まずは観光的な交流から、取りあえずは進めたらどうかというような話がありまして、御殿場市のほうで、例えば山北祭りということで山北町を紹介する祭りを開いたり、あるいは山北町で御殿場市を紹介する祭りを開いたりするのはどうかというようなお話と、あと両市町の特産品を使ってコラボした商品ができないかとか、そういうお話がありまして。まずは御殿場市さんには山北町のことをよく知っていただき、山北町については御殿場市のことをまずよく知っていただくような取組を進めようという形になりまして、それが、先ほどからいろいろお話が出てます雇用の関係ですとか、山北町におきましては働く場所が少ない関係で、ほかのところに働きに行くような方がかなり多いというような状況の中で、先ほどからお話出てますように、御殿場市のほうでは働く方が不足してるというようなことで、まずは御殿場市民の方、山北町民の方に、双方の自治体のよいところ、悪いところをまず知っていただいて、そういった中で関係人口をどんどん増やしていった交流を深めた中で両市町の発展につなげていこうというようなことで、最終的には、要は交流人口増やして両市町の地域活性化を図っていくというようなところが最終的に目指すところだというふうに認識しております。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 これ、非常にいい取組だと思うんですね。連携、県をまたいだ神奈川県と静岡の両市町が相互連携協定を結ぶというのは、やっぱりとってもいいニュースなんだと思うんです。これを生かす手はないとやっぱり思っているんで

す。

県内で結ぶとかはよくある話かもしれませんが、昨日の話、小山は秦野と結んだと話ありましたけどね。そこの部分も、やっぱり山北、小山、御殿場、ぜひ連携をするといったところは、いろんな諸般の事情があるでしょうから難しいのはあまり突っ込みませんが、関係人口の創出であったり、雇用促進であったり、イベントでの交流なんていうのは、こういった協定を結んだから、かなりやりやすくなってくるのではないかなと思うんです。なので、ぜひこの辺りは積極的に進めていただきたいかなと思っています。

今後の展開も含めて、ここの御殿場市との相互連携の協定、それから一緒に小山も巻き込んじゃおうかみたいなお考え、町長どうですか。

議 長 町長。

町 長 御殿場市さんとは、若林市長とお話をして、方向性として、そういうことがいいじゃないかということでお互いに協定を結ばせていただきました。

多少のそれぞれの微妙な違いは多分あるんだろうと、こちらはこちらで思っていること、市長は市長で思ってることは多少あるんだと思いますけど、大きな方向性としては同じようなことを考えていると、例えばそういったような物産であるとか、観光の紹介のほうから入って行って、私のイメージとすれば、やはり最終的には人材交流かなというふうに思っております。

職員同士の交流というのから始めて、当然それの、お互いに交換するとかそういったようなことありますけども、それはそんなに難しくはないだろうとは思っていますけど、最終的には山北の民間の人たちがそちらのほうの審議会に入って、向こうからの人がこちらの審議会に入るような、そういったようなことができるかどうか、そういったようなことができれば、かなり交流としてはすばらしい成果が出るのではないかなというふうに考えております。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 ぜひ前向きに、積極的に取り組んでいただきたいと思います。

次に、3番目、SKY広域圏についてといった形で質問させていただきます。

まず、最初の御答弁の中にありました、三県広域問題協議会道路検討部会、

この辺り、もう少し詳しくどんな組織なのかといったところで御説明いただきたいと思います。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 三県広域問題協議会ということで、先ほど町長の御答弁の中にもございましたけれども、こちらの協議会につきましては、構成団体が、山梨県、静岡県、神奈川県ということで各自治体は入ってございません。県単位の協議会になります。

その中で、協議会の中に、先ほども話に出てまいりました道路検討会という会と、あと富士箱根伊豆地域広域将来構想協議会という会がございます。その中で、いろいろ富士箱根伊豆交流圏の関係の課題を整理して、様々な協議を行っている組織という形になっておりまして、この県の協議会につきましては、市町村のネットワーク会議、こちらのほうにも様々な情報を提供していただくとともに、財政的にもこの県の協議会から市町村ネットワーク会議のほうに補助金というようなものもいただいているような状況でございます。2つの市町村のネットワーク会議と、この県の協議会、連携を図りながらSKY圏の様々な課題等について協議をしているというような状況でございます。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 今、県が中心にというお話ありました。ここの質問の私の趣旨というか、落としどころというのは、ここの部分の県中心をきっかけとして、各自治体が例えば、幹線道路計画であるのであれば山北、道志なのか、北の相模原なのか、小山町なのかといったところの、この三県広域問題協議会道路検討部会がきっかけに、少しこうもっと絞り込んだというか、そういった組織が立ち上がってくるのがいいこと、いい筋道なんじゃないかなと思っているんですが、その辺りは、今具体的には進められてはいないということですか。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 具体的には進めていない状況でございます。

先ほど、町長の答弁の中に、今、神奈川県さんの御協力をいただいて、山北町の広域的な道路ネットワークに関する意見交換会というものを開いているところでございます。これ、県西土木事務所さんの工務部長さんですとか、

道路都市課長さん、あるいは県西地域県政総合センターの企画調整部長さんですとか、課長さんにいろいろ御参加をいただいております、町のほうは、私どもの企画政策課と都市整備課のほうでいろんな議論を行っているところでございます。

その中で、山北町において広域的な道路ネットワーク、どういう形が望ましいのかということと、あと現在、要は三保地域から抜ける道路がないということで、秦野峠林道ですとか、あるいは犬越路林道、それと県道76号がビジターセンターのところで止まってしまっておりますので、そこから先の整備はどうなのかというような議論ですとか、あるいは、先般、一般質問でも出ました、世附から小山に抜ける林道、水ノ木幹線林道、この辺りを中心に今課題等の整理をしているような状況でございます、まだ現在、差し当たり現地調査から始めようということで、現地調査全て済んだ後に道路の必要性、あるいは課題ですとか、今後の進め方をまとめていくというような状況になっておまして、まだちょっと調査の段階でございますので、なかなか、そういう公の場に御提案できるような材料もございませんので、そういった中で、この意見交換会で、ある程度整理した中で、その先に進めるような形を取りたいということで、関係する自治体さんですとか、あるいは県ですとか、国のほうに、町のほうの考えを最終的には提示できたらいいのかなというふうな形で、現在、意見交換会のほうを進めているというような状況でございます。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 今まで、いわゆる頓挫をしていた部分だったのかもしれませんが。丹沢湖から北へ抜ける道、または東へ抜ける道、西へ抜ける道について、まずは山北町と神奈川県が中心となって、一回意見交換会を含めたちょっとそういう組織体みたいなのをつくったというお話だったかと思います。

神奈川県ですから、やはり、ここはSKY圏とはまた別にした、これは、私も先日一般質問させていただきましたが、山梨、道志がちょっと難しいのであれば、今、林道としてつながって、犬越路を使った山北藤野線というんですか、その辺りを視野に入れた連携が必要になってくるんじゃないかという話ですが、とした記憶がございますが、いわゆる、先方は、今度そうな

ると相模原市になってくるわけです。

その辺り、今の現状が、山北側の熱意と、先方北側の相模原側の熱意、この辺りのギャップは、今どの程度なんでしょうか。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 今、犬越路林道の関係ですけれども、山北町側は、先般、現地調査をいたしまして、おおむね舗装は済んでおります。ただ、やはり土砂崩れとか、土砂の流出している箇所が何か所かございます。犬越路隧道を抜けて、相模原市側に入るわけなんですけれども、そちらについては、かなり林道が先般の台風の関係で荒れてるような状況でございまして、実際には、相模原市さんのほうに、山北町のほうでちょっとこういうことを今調査研究してるんだよという話は全くしておりません。ある程度、先ほども申しましたように、県との意見交換会の中で、ある程度、検討材料になるようなものを整理してからお話するようなことで考えておりますので、相模原市さんのほうには、具体的には何の話もしてないような状況でございます。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 ぜひ、この辺りも必要性、防災の観点からも含めて、やはり丹沢湖から北へ抜ける道、北へ抜ける道というよりかはどこかへ抜けないと取り残されてしまうわけですから、その辺りは防災の観点からも、ぜひ議論を進展させていただきたいなと思います。

ここは思いますからどうぞと言っても、分かりましたぐらいの答弁しかないと思うので、ここはこれだけにしておきますが、ちょっとSKY圏のほうに戻りますけど、これSKY広域圏、これ改めて確認しますけど、SKY広域圏に対して、町側からの予算どれだけ今計上してSKY広域圏に関してやっているのか。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 町側につきましては、富士箱根伊豆交流圏市町村ネットワーク会議というような会議体になりますけれども、毎年負担金として、1万8,000円を負担してる状況でございます。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 そうなんですよね、1万8,000円が38市町村でしたよね、が1万8,000円ず

つということなので、50万、60万何がしになってくるかと思うんですけど、結局、これだけの予算で何ができるのかという話になってくると、我々、正副議長でも、昨年参加させていただきましたけど、サミットですか、SKY交流圏サミットってやっているんですね。結局、これだけでは、これがきっかけになって、やはり先ほどの広域連携なり、幹線道路計画なりというものが結びついていかなければいけないんじゃないかなと思うんで、こういったところの取組を新たに検討組織をつくったり、幹線道路計画に対する、そういう組織体をつくったりというのが、やっぱり必要となってくると思うのですが、この辺り、町長お考えどうですか。

議 長
町 長

町長。

おっしゃるように、38の市町村が、そして、また3つの県が入ってますんで、会議として、非常に大きな会議で、我々もそこで意見を言っても、そんなに38分の1ぐらいの感じになってしまうということで、どういうふうにしたらいいかというようなことも聞かれております。

私として申し上げたのは、それぞれの課題について、小さな、今これを全部部会でやっておりますけども、我々首長が同じような問題があるところの、小さな部会ではないですけど、それぞれの首長が集まったほうが話が早いんじゃないかと、要するに違う問題がある首長と話しても、そのところは合わないということで、お互いに同じような問題を抱えている人たちが、例えば、自分はこっちへ行きたいということは、あとは調整していただいて、そういうグループの中で会議をしたほうがより効果的ではないかというふうに考えておりますので、そういったような意見を述べさせていただきました。

非常に大きなサミットでございますので、本当に有効に活用できたらすばらしくなるんじゃないかなというふうに思っておりますけど、逆に言えば、大き過ぎて、なかなか小回りが効かないというような欠点がございますので、そういった意味では、今後ともそういったようなことを生かしながら進んでいけたらありがたいなと思っております。

議 長
9 番 児 玉

児玉洋一議員。

まさに、そういった取組、SKY広域圏を通じて、小さな同じ問題を抱える自治体といろいろ話を、協議を進めていっていただきたいというふうに思

っています。

昨日もこれあったんですけど、かながわ都市マスタープランという冊子があります。要は、交通軸の話がここに書いてあるんですけど、ちょっと分厚い冊子だけれども、県西地域のことは一、二ページしか載ってないんです。読み上げると、ちょっともう時間がないので読み上げませんが、要約すると、このページで書かれてるのは、SKY広域圏を通じて、酒匂川流域とか箱根とか湯河原を中心に質の高い都市づくりを進めますと、上郡北部のこと書いてないんです。上郡北部は自然豊かだから、自然環境なので手をつけませんみたいな、そんなように読み取れちゃう。酒匂連携軸を整備しますと書いてあるんです。酒匂連携軸ってどこかという、これ、おそらく国道で言うと、松田の、要は255ですね、国道255とか、大雄山線の沿線、この辺りは、神奈川県も整備をしているけど、要は、その先、北に抜ける、軸の名前でいうと、横浜足柄連携軸ってあるんですけど、これ東西に走ってる軸ですけど、これが山北町は、そこでは多分246のこと言っているんですけど、それが乗っかってるだけなんです。それと酒匂軸はぶつけるけど、そこから、やっぱり北に抜ける山北のエリアだけ見ると本当に空白なんです。見事なまでに空白。

そこは、やっぱりぜひ山北町長の立場として、県知事にも要望してるわけですから、北へ抜ける軸を、こんな太い軸なんか要らない、こんな細い軸でもいいので、ぜひこのマスタープランに乗っかってこない、もうちょっと、どうなんでしょう、譲歩計画というわけではないですけど、そういう取組を、県に姿勢を見せるというのはいかがですかね。

議 長 町長。

町 長 その、今の都市計画のマスタープランの件ですけども、私は、審議委員として3回、4回出てました。町村からは私1人、そして市からは、たしか前の加藤市長が、小田原の市長が入っておりましたし、その前はどなただったかな、とにかく市から1人、町から1人というような枠組みで、審議会が20人、30人ぐらいかな、30人ぐらいでやるわけですけども、そもそも論として、都市計画の話をするわけですよ、ですから都市計画を立てたところが、私も審議委員でやりましたけど、例えば、私がやったときは、南足柄の大雄

山線のところに道が入ったのは、30年、20年前のが、もう今では合わないから、これを撤回して、こっちにするとか、あるいは小田原市さんのほうの新しい海のところにできたところを道路として申請したいというような件がございます。そういったように、そこの中に出てくるのは、ほとんどが都市計画としてなった部分についての問題、そして、それをオブザーバーというか、審議委員の人には大学の先生方もおられますから、そういう先生方が方向性をいろんなことで、こうしたほうがいい、ああしたほうがいいというようなことでやる審議会でございますので、その中で、例えば、町個々の土地計画がない部分について、まず、立ててから話を持っていかないと無理だろうというふうに思いますので。今、児玉議員がおっしゃったのは、どちらかというと、そういったような方向性のほうの、計画前の方向性の問題だろうというふうに思っておりますので、そういった意味では、確かに、山北町にそういった都市計画がございませんので、そういった表現になるんだろうというふうに、私のほうでは理解しております。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 時間がないので、そろそろまとめのほうに入らせてもらいますけど、今の都市計画の話ありましたけど、山北町はそうなんです。ただ、これを準都市計画区域の制度の活用について検討しますなんていう、神奈川県、このページにも書いてあります。こういう、これから都市となり得るであろう地域に関して、そういったところも含めて、ぜひ前向きに山北の町長として、ぜひ県にも訴えていっていただきたいと思っております。

最後になりますけれども、人口1万人も切りました。自分の子どもとか、孫とか、やはり10年後、20年後どういった山北町の将来像どういったものなのかといったところです。

改めて、「魅力あふれる元気なまち やまきた」とはどんなものなのかといったところ、今回の広域連携を必要性という形で、私、質問させていただきましたが、その辺りも含めて、改めて町長のほうから最後に熱いメッセージいただけたらと思います。

議 長 町長。

町 長 現実的には、人口減少が、なかなか歯止めがかからないということで、本

当に苦慮してるんですけども、これは、日本全体で人口減少が起きておりますので、そう簡単には解決しない問題だろうというふうに思っております。

そういう中で、山北町、今現在、関係人口を増やす、そして、またスマートインターが出来上がったときには大勢の方に来ていただいたり、また住んでいただいたりできるような、そういったようなまちづくりをしていきたいというふうに思っております。

そのためには、やはり山北町にしかできないことをやっていかなければ難しいなというふうに思っております。特に、私の印象にあるのは、かつて山北町、イルミネーションをやっておりました。あつという間に、ほかのところが大々的にやって、あつという間に、山北町のイルミネーションとしては、本当に下火になってしまって、それだけの予算もかけられなくなってきたというようなことがありますので、そういったような同じようなことができる案件についてはやめたほうがいいんじゃないか。山北でなければできない。ですから湖があるとか、ですから今SUPなんかをやらせていただいていますけど、こういうのはどこでもできるということではございませんし、また、山がいっぱいある。キャンプとか、そういったことも都会ではなかなかできない。様々なそういったような、なるべく山北にしかできないことをやらせていただいて、それについて来ていただいた人たち、あるいは住んでいただくような人たち、そういったような人たちを山北に住んでいただく。また、山北のよさを分かっていただくというようなことで、リピーターを増やしたり、あるいは本当に何回か来ていただく中で山北に住んでみようというような方を増やしていきたいなということで、必ずしも便利な山北に住むという、そういう選択肢もあっていいんですけど、住んでいただければ、さほど便利ではないなというふうに感じてしまわれるんだというふうに思っておりますんで、そういった意味では便利さじゃなくて、自然があったり自分がやる、例えば自転車が好きな方、あるいは山登りが好きな方、SUPをやりたい方、様々なマニアの方がいらっしゃいますから、そういったような方が、また、あるいは農業をやりたい方、あるいは色々そういう、山北でなければできないような方に山北に住んでいただく。そういったような中で、山北の人口減少を少しでも食い止めながら、そして、そこで生まれ育った子どもたちに誇

りに思ってもらえるような、そんなまちづくりをしていきたいなというふう
に思っております。